

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175000314		
法人名	社会福祉法人 きたの愛光会		
事業所名	グループホーム秋桜		
所在地	北見市北光296番地7号		
自己評価作成日	平成29年9月28日	評価結果市町村受理日	平成29年12月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の皆さんのご協力を頂き、盆踊りや合同誕生会を一緒に行ったり交流を深めております。又、御家族参加型の行事も増やしており、今後も計画しております。これらの活動を大切に地域、家族との関わりをより深くし、地域に密着したグループホームになるように努めております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://hlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigvosyoCd=0175000314-008

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	形成29年10月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム理念「ゆっくり、ゆったり、家庭的な雰囲気の中で個人の尊厳、自立した楽しい生活を安全に安心して行えるよう、家族、地域で支えてゆく」を基に管理者、職員は利用者の思いの実現に向け支援に取り組んでいます。職員は利用者の気持ちを汲み取るため、日々の暮らし方について自分自身に置き換えて考え、毎日が元気でたのしく暮らせるための工夫や利用者が疎外感を感じないような支援に心がけています。地域住民に事業所の通信を配布することで認知症の周知と理解を得るよう努めています。近隣には老人福祉会館などがあり合同の誕生会に参加することで、地域の一人として利用者自身が感じられるような交流があります。また、町内会の行事、花見や事業所の夏祭り、焼肉等にもお互いに参加し積極的な交流をして、利用者家族の参加を得て楽しいひと時を過ごしています。利用者の意向・ペースに合わせたケアの提供に努めており、残存能力を保つ体操やレクリエーション、家庭的な雰囲気や家族の一員としての役割を大事にしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	秋桜理念を念頭に置いて勤務する様に、会議などで職員への意識付け、実践する事を目標にして取り組んでおります。理念をいつも見える所に掲示しております。	理念の実現を目指して、一人ひとりに声をかけ利用者の気持ちを受容し、利用者個々に合わせた支援の仕方を考えながら実践に繋がっています。職員全員が意識して、1日1日、利用者が元気で楽しく過ごせるよう心がけています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	畑での作業や外気浴を行いながら、ご近所の方と交流されたり挨拶、会話されております。	地域とは畑の草取りなどのボランティアやお互い野菜の差し入れのやり取りなどで交流があります。また、町内会や事業所の行事参加や老人クラブの合同誕生会などを通し、利用者が地域の一員として受け入れ良好な関係が構築されています。利用者家族の友人の踊りやカラオケの慰問もあり、利用者の楽しみとなっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会行事、花見、合同誕生会、盆踊り、避難訓練にも参加させて頂いており、その際、近所の方に、会話の中で認知症について話をさせて頂いたり相談を受けるなど行わせて頂いております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月の最終水曜日に会議を実施しております。会議では参加者の意見を聞き入れ、地域との交流を広めるようアドバイスを頂いております。	定期開催している運営推進会議では、写真で利用者の状況や活動内容等が一目でわかる工夫がされています。地域意見は各会議で検討され、改善点等ケアサービスの質の向上に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターが主催する研修会に参加したり、メールで待機者数等の情報提供を行っております。	行政とは、空き情報など報告の他に疑問や相談等をその都度行い良好な関係を築いています。地域包括支援センターとは運営推進会議で意見や情報交換を行い主催する研修会に参加するなどの連携を図っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で身体拘束ゼロに取り組んでおり、職員会議等で研修も定期的実施しております。身体拘束をしないケアを理解し、実施しています。センサーマットを使用する際には、本人、家族に了承を得て使用しております。	毎年法人が行う職員全員へのアンケートを実施しており、職員の意識付けを行い身体拘束ゼロに取り組んでいます。虐待防止委員会を平成28年に開催し、職員に言葉による行動抑制や禁止行為の具体的な事例等で正しく理解されるように周知しており、身体拘束の無いケアに取り組んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を立ち上げ、高齢者虐待の防止と対応について文書を職員一人一人に目を通してもらっています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修に参加すると共に、職員が必要性について理解し必要な人が出来た場合、制度を利用できるよう取り組んでおります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者の家族が十分に理解・納得出来る様に親切・丁寧の一つ一つ契約書を確認しながら説明を行っております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の話を傾聴し、話しやすい関係を築き意見、不満などを行き出し反映できる様にしていきます。家族に関しては玄関に意見箱を設置し、意見を頂けるようにしています。家族会や、家族参加の行事時にも意見を伺い、反映する事も出来るようにしています。	年2回の家族会などを通して、職員との交流を図り要望や意見など丁寧な聞き取りを行い利用者の日々のケアに反映できるように心がけています。利用者と家族が外出行事を楽しんでいただくため、今回は、内容などの見直しを行うことで、ほとんどの家族の参加を得て実施に至っています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が運営に関して意見や提案行える場として、月1回の会議を開催しており、出された意見等については出来るだけ反映できるように努めております。	管理者は毎月のミーティングや日常の業務の中で気軽に話し合いができる雰囲気を作り、職員の意見や提案を運営に反映しています。年2回歓送迎会等で職員との交流があり、また職員のストレスなどが見受けられた時は、個別に対応しています。	更なる職員のスキルアップの向上に向けて体系的な研修体制構築を期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修会の案内をする等、スキルアップできるよう努めています。又、職員との個人面談によって職員の思いの聞き取りを行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成については、個々の段階に応じ研修を法人内部で実施しております。又、外部研修も参加できる機会を確保しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービスの質の向上に努めていますが、他のグループホームとの職員の交流や事例等を交えた意見交換は、協議会の集まり等に参加し出来るだけ多くの他グループホームの職員と交流できる様にしております。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族に聞き取りを行い、それに基づいて寄り添う事から始め、話を傾聴し面談の中から本人の思いや不安を少しでも引き出せる様、出来るだけ早期に信頼関係が構築できるように努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人との信頼関係の構築の上に、サービスを利用するに到るまでの家族の思いや不安に対しても、十分に傾聴し受け止める様務めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の思いに傾聴しながらプランに反映するとともに、必要に応じて他のサービス(生活リハビリ)の活用なども行っています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や家事などを通じて色々な事を御指導して頂くよう心掛け、会話の中からも教わる姿勢を心掛けています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会の行事等(焼き肉会、家族参加行事、クリスマス会)を通じ交流すると共に、利用者の通院等の利用に際しても、その都度連絡をしたり、一緒に同行して頂いた家族と一緒に本人を支える関係を築いております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた際には話しやすい環境での面会になる様配慮し、本人との時間をゆっくり作れるように配慮しています。	外泊や墓参り、美容院は、利用者の希望に沿って家族や親戚の協力を得ながら馴染みの関係継続ができるように支援しています。月刊誌や新聞など以前からの生活習慣も継続できるよう配慮されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方と会話が弾む様に座席の配慮をしています。また出来るだけ活動に参加できるように興味のある活動(おはじき、かるた等)を提供しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された家族より、入居相談や、面会に来て頂く様声を掛けたり等、関係を継続するよう努めております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月の会議などで話し合い、出来るだけ利用者の意向に近づけるように努力しております。	利用前の生活歴などを基に、利用者一人ひとりの話を聞き取り、個々の思いや要望を汲み取り、その情報は職員間で共有を図り、できることの実現に向け検討しています。利用者の日々の状況を把握し、その日にできることを積極的に担っていただくなどで利用者が元気になるように取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・担当の居宅支援事業所、包括支援センター、家族より聞き取りを行い出来るだけおなじみの暮らしが出来るように努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の行動や会話の中からその人の置かれている状況を的確に把握するように努めております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で話し合った物で原案を作成し、本人・家族などと話し合い、介護計画にそれぞれが反映されるよう努めております。	利用者や家族の思い、要望の把握に努め、職員間での意見や気づきを話し合い、具体的な介護計画になるよう取り組んでいます。また、日頃から利用者の状態や家族の希望等に変化がないかを確認しながら、必要に応じて見直しを行い、現状に即した計画にしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノート・申し送り・個人記録などを利用し情報を共有しながら実践や介護計画見直しに生かしていますが、まだまだ情報量が不十分な箇所があり、少しでも改善出来る様務めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人では入所施設・居宅サービスを実施しており、その機能を生かして、必要に応じて支援を行っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	御近所の方の畑、草刈りなどのボランティア、お互い取れた物や頂き物のやり取り、年2回の避難訓練(書房より3名参加)、運営推進会議に参加して頂いている、民生員・町内会役員・老人クラブ会長の方の協力を貰い支援を行っております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向を尊重し、以前通院していた病院で受診できる様、かかりつけ医との関係を築き適切な医療を受けれるよう支援しております。	かかりつけ医への受診は家族対応で、必要に応じて歯科・皮膚科などの往診や年2回法人内の看護師による健康診断及び週1回の訪問看護師により健康管理がされています。利用者は情報システム「北まるnet」に登録し緊急時の対応にも考慮され安心に繋がっています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護や法人内の看護師の協力を得ながら、日常の健康管理や医療の支援を行っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は、定期的にお見舞いに行き、その都度状況を聞いております。病院側からもわからない事は、電話や面会時に相談され、連携は十分にとれております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応の指針、看取りに関する指針を設け、家族にも説明を行い同意を得ております。	契約時に重度化した場合の対応について、利用者や家族に説明し、事業所での看取りを希望する利用者に対しては、体制を整え看取り介護の指針をもとに利用者や家族の意向、思いに添えるよう取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員、消防が行っている普通救命講習を受講しており、年2回の定期的な防災会議を実施しております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防職員立会いのもと避難訓練を行っており、注意事項等その都度教えて頂いております。避難訓練には近所の方、家族、民生委員、町内会長、老人クラブ会長、地域包括支援センターの方に参加頂いており、緊急時の協力をお願いしております。	消防署立会いのもと昼夜想定で町内会長や近隣住民、家族などの協力を得た避難訓練と水害を想定し関連施設と合同で自然災害避難訓練を実施しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人を尊重した言葉掛けになる様に職員間で会議中振り返り、確認する事で意識付けし対応しています。	利用者が自分の判断で行動する事を促し、尊重し自尊心を傷つけないよう職員は利用者寄り添った支援に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着替えの服を選んで頂いたり、食べたい物を聞き取りメニューに反映する等を行っております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の希望を傾聴し、日課に支障をきたさない程度に出来るだけ希望に添うように配慮しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理髪の際など、本人の希望に沿った髪形、長さ出来る様にしています。衣服等もご自分で出来る限り選んで頂ける様に配慮しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・味付け等利用者に行って頂けそうな事を会議中に話し合いながら、出来る事を増やしています。	献立は法人の栄養士が作成していますが、日曜日の昼食は利用者のリクエストに応じて食事をしています。夏祭りの焼肉やおやつ作り、天気の良い日は外にベンチテーブルを用意し食事をしたりと気分転換を図っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の栄養士が作成したメニューを元に食事・水分摂取量を管理しております。食事も個人に合った形態で提供しております。摂取状況に変化が見られた場合は栄養士よりアドバイスを頂いております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個人の状態に合わせて介助を行っております。口腔ケア時に口腔内の確認、舌のマッサージ等も行っております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し個人にあった時間帯に誘導を行っております。トイレに行きたいという排泄サインを見逃さないように支援しております。	自発的にトイレに行く利用者や車イスの方もなるべく歩行・移乗によりトイレでの自立排泄を支援し声掛け誘導見守りで安全に排泄出来るよう努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医師への相談、法人内の栄養士からの指導、訪問看護への相談により、便通の良くなる食品の使用や運動を行い出来るだけ自然に排泄出来るように配慮しております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を決めて対応してはいますが、入浴自体面倒なのか拒否されることが多い方がいます。拒否が続くタイミングが合わなければ、個々の思いに沿って入浴対応しております。	週2回を基本としていますが利用者の希望や体調を考慮し入浴しています。拒否の方でも清拭や声掛けで解決し、2人介助を行い安全には充分配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別の対応を行う事により、居心地が良いように配慮しております。疲れやすい方、または高齢な方には昼寝の時間を促すなどの配慮、対応を行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人のファイルに薬の一覧表を付けて周知徹底をしています。疑問があれば直ぐに確認できる様にしている事と、服薬用のマニュアルを作成し服薬時には2人でチェックを行う事により誤薬防止に努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴を活かして、役割を担ってもらう等個々に出来る事をなるべく行って頂いております。個人の好きな事も尊重し行えるよう配慮しております。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外で日光浴を行い皆さんでお茶を飲んだりお菓子を食べたりされております。買い物・ドライブ・散歩なども随時行っております。	日常的に散歩や買い物、家族参加のドライブと外食ツアー、家族との外食や温泉など利用者一人ひとりの希望を叶えられるよう取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の能力に応じて所持して頂いております。必要な物があれば、一緒に買い物へ出かける等の対応を行っております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかける介助行っております。手紙の投函等は書く方がいない為実施しておりませんが、希望者がいれば支援致します。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔の生活感が出る様に、食器棚、時計等の配置をしています。不快な光、音などには十分に配慮しております。	居間には季節ごとの飾りや行事の写真、利用者手作りの折り鶴が飾られています。ゆったり・ゆっくりと個々の能力に合わせ、笑顔で元気に生活出来ることを心掛け支援しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間が広い為、1人になれたり、集う事が出来る様、一人掛けソファや少し離れた所に2～3人掛けのソファを設置しております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしています	自宅での生活環境に出来るだけ添う事が出来る様に、家族と相談しながら使い慣れた家具等を配置出来る様、配慮しております。	利用者の居室には使い慣れたソファやテーブルなどを配置し、家族と出掛けた写真などが置かれ、今までの生活と変わらなず継続できる雰囲気作りに努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	テーブル、椅子等のスペース、安全な環境作りには十分に配慮しながら、利用者の身体状況等に合わせて、その都度模様替えをしております。		